



昭和33年(1958)以前 新潟駅前土地画整理工事の状況

昭和33年(1958)、新潟駅が現在地に移転し、民間の店舗も入居する「民衆駅」として開業しました。移転前には42.4haの田を埋め立て、新駅から流作場までの幅50mの道路(東大通)とこれに直交する道路(明石通)を新設し、街区が設計されました。上の写真は工事中の様子。まだ、駅前には建物が何も建っていません。



「ハセキの多いド口田を1年かけて埋め立てた」土地画整理事業の竣工を記念して、新潟駅万代口正面に設置されていた裸婦像は、2014年3月からは隣の石宮公園に移設されています。



昭和33年(1958)開業時の新潟駅前。向かって右にバスターミナルがあります(写真上)



駅前(現在の万代口前)正面の東大通は当初から片側4車線の道路でした(写真右)



平成25年(2013)の新潟駅前・東大通(写真左)



2013年の新潟駅万代口正面パノラマ写真 旧新潟駅前からの路地めぐり～春日町・南万代町界限

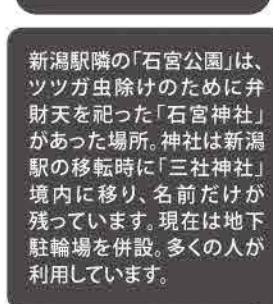


### 全国とつなぐ～現在の新潟駅

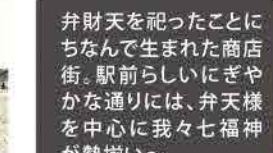


「雪椿の乙女」

新潟駅万代口にもあるバスターミナルは、昭和の香りがする空間。



新新潟駅の「石宮公園」は、ツツガムシ除けのために弁財天を祀った「石宮神社」があった場所。神社は新潟駅の移転時に「三社神社」境内に移り、名前だけが残っています。現在は地下駐輪場を併設。多くの人が利用しています。



弁財天を祀ったことにちなんで生まれた商店街。駅前らしいにぎやかな通りには、弁天様を中心に我々七福神が勢揃い～。



普通の住宅地と思いきや・・・一般の住宅に火土器!実はこちらのご主人が手作りをしたものだそうです。完成度の高さに思わずうなりますよ。



上越新幹線開通を記念して作られた像。新幹線ホーム下で探してね!



雪崩れから人命救助した「忠犬タマ公」

### 駅前楽天地

弁天通商店街から一本奥、古い町並に新しい店が融合しているちょっとディープな「楽天地」。辛党&居酒屋好きのおとなには、夜もおすすです。



新潟駅が現在地に移転した頃の地図

昭和33年(1958)頃の「最新新潟市街図」



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



路地の向こうに鉄塔、銭湯、猫。ちょっとカオスなエリアでは、ゆっくり散歩を楽しみましょう!



くねくねカーブしている細道や、昔からあるらしき商店や飲食店。思い思いの植栽や猫の姿もちらりほり見える。路地めぐりお楽しみ満載のエリア。堪能して欲しいニャー



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!

### ～春日町・南万代町界限



弁天公園には「公衆電話発祥之地」の石碑が設置されています。探してね。



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



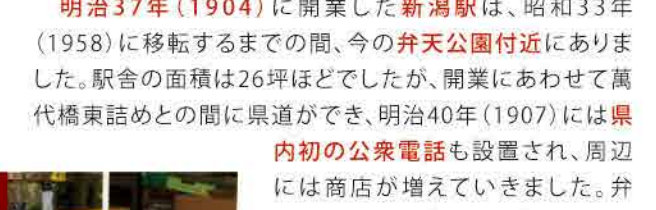
くねくねカーブしている細道や、昔からあるらしき商店や飲食店。思い思いの植栽や猫の姿もちらりほり見える。路地めぐりお楽しみ満載のエリア。堪能して欲しいニャー



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



明治37年(1904)に開業した新潟駅は、昭和33年(1958)に移転するまでの間、今の弁天公園付近にありました。駅舎の面積は26坪ほどでしたが、開業にあわせて萬代橋東詰めとの間に県道ができて、明治40年(1907)には県内初の公衆電話も設置され、周辺には商店が増えていきました。弁天公園周辺の南万代・春日町界限は、かつての駅前地域にあたります。迷い込んでみたくなる魅力的な路地や商店がたくさんあるので、ゆっくり歩いてみてください。



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



くねくねカーブしている細道や、昔からあるらしき商店や飲食店。思い思いの植栽や猫の姿もちらりほり見える。路地めぐりお楽しみ満載のエリア。堪能して欲しいニャー



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!

### 全国とつなぐ～鉄道と自動車の町・万代シティ



信濃川両岸の埋め立て工事は昭和4年(1929)に着工され、第一期として萬代橋から昭和橋の間約60haが埋め立てられました。左岸側は川端町と名付けられ一般に売却されましたが、右岸側には昭和10年(1935)に新潟合同自動車(現 新潟交通)本社が移転、11年(1936)に新潟鉄道局が開局し、鉄道と自動車の地となりました。1970年代になって、新潟交通のバスターミナルを中心とした再開発が行われ、万代・八千代エリア帯は「万代シティ」という商業地になりました。現在も新たな商業ビルが建設されるなど、変化を続けています。



信濃川右岸でひとときわ自立つ「新潟日報メディアシップ」。北前船をイメージした建物は地上20階の高層ビルで、飲食店やホールも併設。展望フロアもあります。



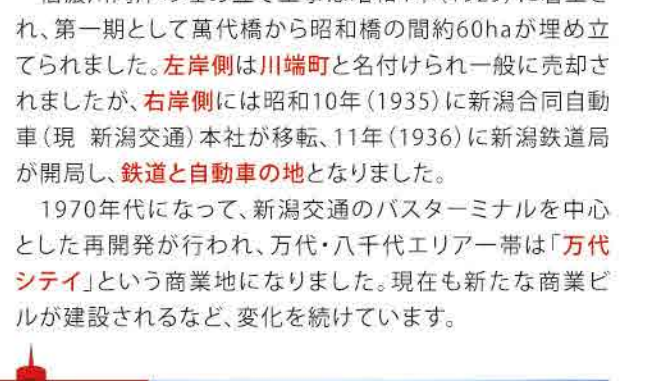
昭和26年(1951)に建てられた新潟交通のバス・ステーションは、日本初のものとして大きな話題に(現在のテレコムビルの場所)



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



信濃川右岸の埋め立て工事は昭和4年(1929)に着工され、第一期として萬代橋から昭和橋の間約60haが埋め立てられました。左岸側は川端町と名付けられ一般に売却されましたが、右岸側には昭和10年(1935)に新潟合同自動車(現 新潟交通)本社が移転、11年(1936)に新潟鉄道局が開局し、鉄道と自動車の地となりました。1970年代になって、新潟交通のバスターミナルを中心とした再開発が行われ、万代・八千代エリア帯は「万代シティ」という商業地になりました。現在も新たな商業ビルが建設されるなど、変化を続けています。



現在のバスセンター



バスセンター2Fにワシはおるぞ。見つけられるかな?



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!